

# 会報

(No.461)

2016年7月

題字：故 津村重舎元会長



キキョウ (写真提供：東京薬科大学 名誉教授 指田 豊 先生)



公益社団法人 東京生薬協会

Tokyo Crude Drugs Association

# 超・高齢化社会 雑感



公益社団法人東京生薬協会 副会長

塩澤 太郎

二年ほど前になるのでしょうか、ある高齢かつ著名な作家が新聞で語っていたことが、未だに私の頭の中を離れません。それは「そう遠くない将来に、老人ホームが放火され、多くの高齢者が焼死するという痛ましい事件が多発するのではないか。これを題材に小説を書くこともできるが多分自分は書かないだろう。」という主旨のものでした。現実には幸いにも、斯くのごとき事態はまだ発生していませんが、高齢者が何らかの被害に遭う事件は多発しているようです。最近では、川崎市の介護付き有料老人ホームにおいて、職員による入居者転落死で3人が亡くなるという事件。東京都北区のクリニックが運営する割安な有料老人ホームにおいて、凄惨な虐待が明るみに出るといった事件等が記憶に新しいと思われまます。

転落死は論外としても、虐待の問題は複雑です。この北区の老人ホームに義母を入居させていた女性は、虐待があっても本音として引き取りたくない。否、出来ないというのです。介護のため、退職したら生活ができないし、自宅介護は介護する方も大変な負担で、下手をすると共倒れになる恐れがあるといった背景があるようです。正に現代版「姥捨て山」時代の到来ということでしょうか。

最近よく言われることに、2025年問題があります。この年になると、8百万とも10百万人とも言われる「団塊の世代」が皆75歳以上になっていきます。後期高齢者が急増していくのです。このような超高齢化社会にどう対応するのかという議論と同時に、冒頭述べたように、大変悲惨な社会現象が生じるという可能性に我々がもっと気づかなければならないと思います。今では更に、高齢者が被害者でなく、加害者又は犯罪者として登場するケースも多発してきています。既に、一刻の猶予もならない状況ではないでしょうか。

近年の高齢者健康調査等を見ると、仕事を続けている高齢者の方が長い間健康を維持できることが判明しています。高齢者にできるだけ働いてもらい、社会貢献していただく、高齢者を活かす社会の実現が喫緊の課題ではないでしょうか。政府も「一億総活躍社会の実現」を目指しているので、当然この課題が計画の中に含まれていると思いますが、先頃閣議決定された「骨太の方針」等にあまり具体的に明示されてないように見えるのが少し気になります。ただ既に一部の企業で、65歳以上更には70歳以上の高齢者に対し、職の機会を与えているケースが見られることは、大変心強いものがあります。

現在、東京生薬協会では藤井会長のリーダーシップのもと、国内生薬栽培の推進を図っておられます。これは生薬の生産国が一部の国に偏っているリスクの軽減を図る目的もありますが、日本農業再生の一環として、米作に頼らない作物栽培の開発に資する面も大いにあると思っています。この生薬栽培に高齢者を活かせないかと考えていますが、まだ生薬によっては相当に労働負荷が高く、機械化対応等でも難しい面もあるようで、一筋縄ではいかない状況ではあります。しかし、私は生薬の需要は今後もかなり増大すると予想していますので、国内生薬栽培と高齢者を活かす社会の両方の実現ができれば素晴らしいと夢想しています。その意味で、東京生薬協会のなお一層の生薬国内栽培に向けたご活躍を大いに期待するものです。

# ストレス、消化器(胃腸)と漢方

● 東海大学医学部准教授 新井 信 ●

近年、「脳腸相関」ということが盛んに言われるようになったが、西洋医学は本来、心と身体とを分離して考えてきた。しかし、昔から「はらわたが煮えくりかえる」、「断腸の思い」などの言葉があるように、実際には脳と腸、ストレスと消化器症状は深く関連している。漢方では古来、心と身体とが密接不可分な相関関係にある「心身一如」という立場を取っている。

気血水理論に従えば、「気」は生命活動を支える根源的エネルギー、「血」と「水」はそれぞれ血液と体液、およびそれらに関連した機能や感情関連した機能や感情を指し、健康な人ではこの3つの要素が過不足なく、かつ滞ることなく身体の中を巡っていると考える。気の量が不足した「気虚」では無気力や倦怠感、気の流れが滞った「気うつ」では抑うつ気分や呼吸困難感、気が頭部へ逆流した「気逆」では発作性の怒りやのぼせなどが現れる(表)。血の巡りが滞った「瘀血」では月経痛や月経前のイライラ、血の量が不足した「血虚」では貧血や栄養不良、水の量や分布に異常がある「水毒(水滞)」では浮腫や雨の前日の頭痛などの症状が現れる。また、漢方でいう「五臓」、すなわち肝、心、脾(胃腸に相当)、肺、腎は、それぞれ怒、喜(笑)、思(慮)、悲(憂)、恐という感情と深く結びついている。例えば、肝は怒、筋、目、青などに関連しているため、抑肝散は攻撃的性格に加え、怒りの感情で筋肉がピクピクし、目を血走らせ、青筋を立てているという人に使う。さらに「七情」という考え方は、喜、怒、思、憂、悲、恐、驚という内因が乱れると五臓に影響を与えて病気を引き起こすというものである。

消化器領域は悪性腫瘍の発生頻度が高いだけでなく、心の問題が身体症状に影響する「心身症」も多くみられる。前者は本質的に西洋医学の適応だが、後者は漢方が得意とするため、特に消化器領域においては、両医学をうまく使い分ける、あるいは併用することが治療上のポイントとなる。

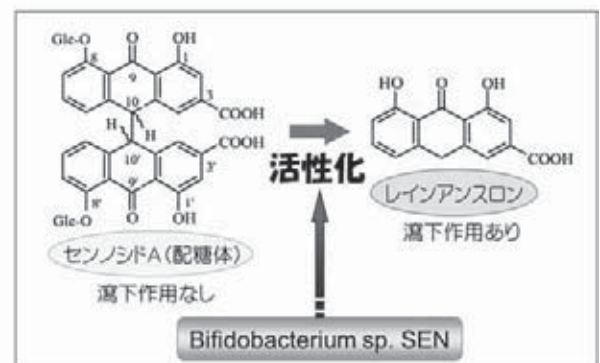
消化器心身症に対する漢方治療を説明する。胃もたれや食欲低下に対する第一選択薬は六君子湯であるが、半夏瀉心湯(心窩部張り、げっぷ)、半夏厚朴湯(息苦しさ、咽つかえ感)、安中散(胸やけ)は神経性胃炎に保険適応があり、ストレスによる胃症状に積極的に用いる。胃痛に用いる柴胡桂枝湯にも精神安定作用がある。大黄は瀉下作用だけでなく、含有するRG tanninによる向精神作用も有する。生薬中の配糖体は多くが腸内細菌を介して有効成分が血中に移行するが、

大黄に含まれるsennosideもBifidobacteriumにより活性化され、瀉下作用を発現する(図)。これは市販されている特殊なヨーグルト(LKM512)に含まれている。大黄を含む処方では数多いが、大黄甘草湯(便秘一般)や麻子仁丸(高齢者のコロコロ便)などが頻用される。下痢は冷えに起因する慢性下痢(陰証の下痢)が漢方治療のよい適応である。人参湯(上腹部症状)や真武湯(朝方の無痛性下痢)などを用いるとともに、腹巻きやズボン下で腹部を温め、温性食物を取るよう心掛ける。急性ウイルス性胃腸炎による噴水状嘔吐と下痢には白湯に溶いた五苓散を少量ずつ冷服させると効果的である。腹痛をきたす代表的疾患である過敏性腸症候群には桂枝加芍薬湯が第一選択薬である。また、ガスによる腹部膨満には大建中湯(術後腸管癒着)を頻用するが、効果が不十分な場合には桂枝加芍薬湯を併用する。胃腸虚弱が甚だしい人の腹部膨満には厚朴生姜半夏甘草人参湯(人参湯エキスと半夏厚朴湯エキスを併用)を試みる。

消化器症状はストレスと密接に関連しているため、漢方治療のよい適応となる。しかし、この領域は特に悪性腫瘍の発生頻度が高いため、症状の原因検索も怠ってはならない。

表：気の異常

漢方用語	漢方的病態	症 状	治療・使用処方
気 虚	気の量的不足 ・生命エネルギーの不足	疲労倦怠感 疲れやすさ 食欲低下 消化呼吸機能低下	人参・黄耆を含む処方 (補中益気湯、十全大補湯など) 四君子湯など
気うつ	気のうつ滞 ・精神活動の停滞 ・ガスのうつ滞	抑うつ気分 不安感 喉のつまる感じ 腹部膨満感	厚朴・紫蘇葉・香附子などの気劑 を含む処方 (半夏厚朴湯、香蘇散など)
気 逆	気の上衝 ・生命エネルギーの上衝 ・精神活動における逆上 ・ガスの逆流	冷えのぼせ 発作性動悸・頭痛 不安焦燥感 顔面紅潮 げっぷ	桂枝・(甘草)を含む処方 (桂枝湯、苓桂甘藷湯など) 黄連・(黄芩)を含む処方 (黄連解毒湯、三黄瀉心湯など)



図：大黄が効くメカニズム



# 健康・長寿を迎えるために

● いざわ漢法クリニック 院長 伊澤 和光 ●

「これさえやっておけば健康長寿間違いなし」というような秘策はありません。

「健康長寿」にたどり着くにはいくつかの関門を通り抜けねばなりません。

そこで今回は長寿への最大の関門と思われる「四大死因」について考えてみようと思います。「四大死因」とはガン、心臓血管障害、肺炎、脳血管障害の4つです。まず、心臓と脳の血管障害はそれぞれを養う血管をいかに若々しく保つかということで共通しますので一括してお話しし、次いで肺炎予防、ガンの順にお話ししようと思います。

## I 心臓・脳血管障害の予防

血管をいつまでも若々しく保つには食事、運動の2つかと思います。

1. 食事 次の2点に注意が必要です。

(1) 動物性脂肪(飽和脂肪酸)は悪玉コレステロールを増やし、動脈硬化を促す。

植物性脂肪(不飽和脂肪酸)といえどもオメガ6系の過剰分は活性酸素により酸化され過酸化脂質となり動脈硬化に結びつく。

中性脂肪もその過剰分は活性酸素により酸化されスーパーオキシドアニオンとなり核のDNAを攻撃しガンの一因となり得る。

BMI値=体重(Kg)÷身長(m)の2乗が18.5~25未満を保つよう心掛けること。

(2) 塩分 動脈硬化に結びつくし、高塩分食品は胃ガンなどの危険因子である。

日本人の塩分の1日摂取量は男性で8~9g、女性で7~7.5gが適量とされている。

2. 運動 運動の大切さは種々の面から言われていますが動脈をいかに若々しく保つかという点でいえば悪玉コレステロールを燃焼、減少させ、善玉コレステロールを増加させます。

## II 肺炎の予防

高齢化すれば誰であれ免疫力は落ちてきますが、日常生活のちょっとした注意でその低下は防げます。心掛けて下さい。

1. 食事 抗体の原料となるタンパク質、粘膜を丈夫にし菌の侵入を防ぐビタミンA、白血球の働きを強めるビタミンC、リンパ球の増殖に必

要でNK細胞や貪食細胞を活性化させるビタミンE、タンパク質の合成・分解に必要なビタミンB6、炎症を抑えるオメガ3系脂肪酸(EPA・DHA)などの摂取を心掛ける。

2. 運動 強制されない楽しい運動は細胞性免疫を賦活させます。また筋肉は最大の熱発生器官ですから、筋肉量が落ちると体温は低下します。体温が1度下がると免疫力は30%も落ちると言われています。人体の筋肉の70%は腰から下にあります。ですから歩いて下さい。

3. 睡眠 睡眠不足はガンの発生率の増加、インスリン分泌量の低下、アレルギー疾患の増加、感染症の増加などを引き起こします。

4. 入浴 入浴はリンパの流れや血流を良くしますし、体温保持になります。

5. 笑い 笑いがなぜ免疫力を高めるのかと思われるかも知れませんが笑って楽しく過ごすことで前頭葉が興奮し、それが免疫をコントロールする間脳に伝えられ無数の神経ペプチドが作られ、その結果NK細胞、T細胞といった免疫細胞を活性化させるからです。

6. ワクチン接種 肺炎の原因として怖いのは肺炎球菌とインフルエンザウイルスの感染によるものです。肺炎球菌のワクチンは以前より安全性も高まり1回の注射で5年間ほどは有効ですので打っておかれた方が安心です。そして、インフルエンザの流行に応じてインフルエンザワクチンの接種を受けられたらいかがでしょうか。両者の混合感染は命取りになりかねませんから。

## III ガン

(図1)は1981年アメリカから発表されたガンの原因を表したグラフです。

日々の食事35%、喫煙30%、アルコール・医薬品・食品添加物の3つで約10%合計で実に75%のものが口を通してということになります。発表された当時は非常な驚きでしたが、現在では当たり前のこととして捉えられています。

さらにその10年後、デザイナーフーズなるピラミッド型の図表が発表されました(図2)。アメリカでは食事のみならずガン検診の受診率の高さ、個々のガン遺伝子を知ることができるなども合



わせてのことと思いますが1991年以降ガンによる死亡率も減少してきています。一方、日本では1/2の人がガンに罹り1/3の人はガンで亡くなると言われています。

表1と表2は2012年、日本消化器病学会誌に載った統計です。結果を見ますと

- 1.日本人に多いガンは男女とも肺ガン、胃ガン、大腸ガンの3つです。
- 2.よく、「自分は75歳を過ぎたのでガン年齢は過ぎた」というような言葉を聞きますが、それは全く希望的観測に過ぎないという事です。
- 3.膵臓ガンは罹患率は0.9%と低いが死亡率も同じ。つまり罹ったら100%死亡するという事です。
- 4.高齢化と共に前立腺ガンは増えますが死亡率は低いガンもあります。
- 5.女性で注意しなければならないのは大腸ガン、胃ガン、肺ガンに加え乳ガン、子宮ガン、子宮頸ガンにも注意が必要です。

さて、ガンに対しては何と言っても早期発見、早期対応が必要となりますが、最後にガンの危険因子やチェック項目を表3に列挙しておきます。

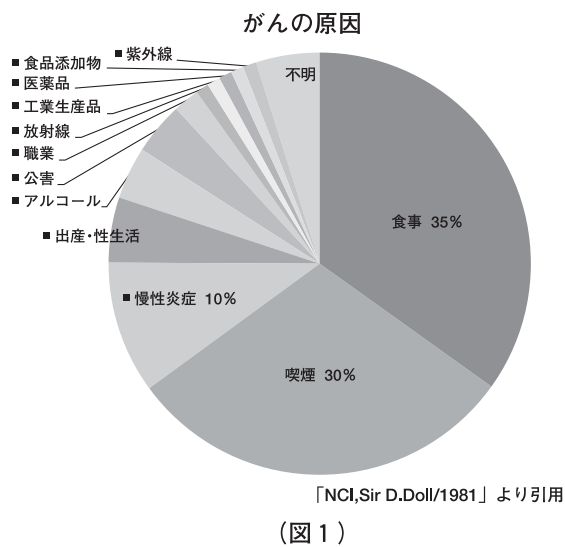
(表1) 日本人とがん (男性)

部位	罹患率(%)		死亡率(%)	
	75才まで	生涯	75才まで	生涯
全部位	27.8	53.6	11.0	26.1
胃がん	6.0	10.9	1.8	4.1
大腸がん	4.5	8.1	1.3	2.9
肺がん	3.6	8.6	2.4	6.3
食道がん	1.2	1.9	0.7	1.2
肝臓がん	2.3	3.8	1.3	2.7
膵臓がん	0.9	1.9	0.9	1.7
前立腺がん	2.9	6.2	0.3	1.4

(表2) 日本人とがん (女性)

部位	罹患率(%)		死亡率(%)	
	75才まで	生涯	75才まで	生涯
全部位	20.4	40.5	6.2	15.9
胃がん	2.3	5.5	0.7	2.0
大腸がん	2.9	6.7	0.8	2.3
肺がん	1.5	3.9	0.8	2.1
食道がん	0.2	0.4	0.1	0.2
肝臓がん	0.8	2.0	0.4	1.3
膵臓がん	0.6	1.9	0.5	1.5
乳がん	4.9	6.2	1.0	1.4
子宮頸がん	0.8	1.1	0.2	0.3

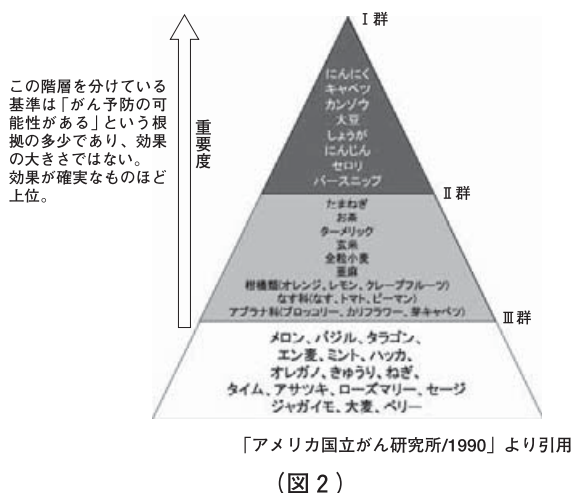
(表1・表2)「消化器癌の一次予防」笹月静から日本消化器病学会雑誌 2012 より引用



(表3)

1.胃ガン	ピロリ菌の除去と禁煙、高塩分食品に注意。萎縮性胃炎の既往のある方は定期的な内視鏡検査を受けること。
2.肺ガン	禁煙と年1回は胸部X線検査を受けること。
3.大腸ガン	黄緑色野菜の摂取と運動。毎年、2日間による便潜血検査を受けること。
4.食道ガン	酒を飲むとフラッシュと言いますが真っ赤になる人は注意。また、重複ガンといい他のガンと重複することも多い。
5.肝臓ガン	C型肝炎、B型肝炎からの発症や非アルコール性脂肪性肝炎からの発症もあるので注意が必要。
6.膵臓ガン	発見が遅れ手おくれとなることが多いので家族に膵臓ガンの方がいる場合はPET検査のような精密検査を受けること。
7.乳ガン	欧米人に比して日本人では比較的若い年齢層にも発症する。
8.子宮頸ガン	HPV(ヒトパピローマウイルス)による事が分かりワクチンも開発されたが副作用問題が起こり任意摂取の状態である。検診を受けること。
9.前立腺ガン	PSA検査(血液検査)を受けること。

がん予防食品「デザイナーフーズ」



# 一本堂薬選を読む (22)

## 桂

● 金匱会診療所 小根山 隆祥 ●

〔読み〕

〔試効〕

傷風寒を療し、汗を發し、肌を解し中を温め、氣を下し、煩を止め、渴を止め、腠理(ソウリ)を開き、關節を利し、奔豚(ホントン)を治し、水道を導き、月閉を通じ、難産胎衣下らざるを治す。癰疽痘瘡の内托。百薬を宣導し、畏忌するところなし。諸薬の先聘通使たり。

〔撰修〕

凡そ、桂を撰ぶに枝條皮、身幹の皮及び皮の厚薄に拘らず、惟 味辛く甘く、香氣稍や烈なる事有る者を取りて佳と為す。用うる時、外面甲錯の粗皮を削り取り、裏面色紫、脂多き処を取りて、任使す。若し、その紫脂の処、味辛甘ならず。及び稍辛甘なりと雖も亦、悪むべきの氣味あり。洪くして浅薄なる者、皆用ゆるに堪えず。且つ、旧説に拘りて皮の厚薄に泥(ナズ)むべからず。必ずしも皮厚き者は味厚く、薄き者は味薄きに非ず。薄皮と雖も、而るに味厚き者は用うべし。今の海舶 載來する所交趾(コウシ)桂及び東京(トンキン)桂と呼ぶが如き是なり。厚皮にして、味薄き者も 間間(ママ)亦之あり。今の松浦桂心と稱する者の如き、決して用うべからず。この邦も亦、有り。但し、絶品 少なきのみ。また、案ずるに、李時珍 本草綱目 龐安時(ロウアンジ)が説を引きて云う。炒り過せば、胎を損せずとなり。アー桂豈炒るべきの物ならんや。凡そ、香氣在る者 悉く火に炒を忌む。諸物皆然り。桂既に火炒を経れば、氣味俱に脱し、頑然と鈍物となる。若し、この氣味俱に脱し、頑然たる鈍物を挙げて、之を用うる時は用いざると何ぞ、異ならん。その害なきなるも亦、宜しきなり。況や、産前、桂を忌むべきに非ざるにや。故あれば、殞す(オトス)ことなしと。何の畏れが之(コレ)有らん。

〔弁正〕

桂は即ち桂の皮なり。或いは幹、或いは厚く、或いは薄く、皆 混じ用ゆべし。総べて之を桂と謂う。また桂枝と稱す。予を以て之を觀れば、直に桂枝と稱するの最も當に如かざるなり。竊(ヒソカニ)思うに、古の桂を伐するや、その枝條を斫(キ)りて、皮をとりて、これを用ゆ。故に、これを桂枝と謂う。後世人稠(オオ)く用広し。枝條を取りて足らず。故に本幹を連ねて、之を伐るに至る。是において、始めてその本幹の厚皮、切つて幹肉の如くなる者を以て呼びて、肉桂と為す。遂に、単字の桂を牽合し、謬(アヤマ)りて肉桂となす。嫩小枝條の皮を分けて、桂枝と為すに至り、誤れりと謂うべし。蓋し、桂 桂

枝 肉桂 桂心 官桂 柳桂 板桂 皆 是同一物にして、特に美惡によりて、性力 優劣あるのみ。李時珍が本草綱目に引くところ、惟 蘇恭 陳藏器の二説。頗るその要を得ると為すなり。伴に按ずべし。その余の諸説 適従すべからず。靈樞 初めて桂心と稱す。心の字大いに当たらずと為す。何となれば、心は即ち中心なり。凡そ枝條の皮を剥ぎ取り、その中心を骨と呼びて、棄て去るべき者、之を心と謂うなり。本幹の骨と雖も亦同じ。此れ、是の棄骨 粗惡味無し。固より用ゆべからず。今、皮の裏面を謂いて、心となす者何ぞや。此れその字を命ずるの当たらざるなり。草に燈心あり。これその草 心以て火を引くべきの処、これを心と謂う。若し、その草皮裏面を呼びて、心と為せば草皮裏面 火を引くべからず。何ぞ、之を以て燭心と為すことを得んか。既に、草皮裏面 心と呼ぶべからざるを知る時は桂枝皮の裏面もまた、心と呼ぶべからざることなり。弁を俟たずして 彰彰(エイエイ)たり。その他、心と呼ぶ者も亦、皆物の中心を謂うなり。天門冬心、麦門冬心の類の如し。故に桂心と稱するは誤りのもっとも甚だしき物なり。後世、遂に心の字について妄りに鑿説(サクセツ)を造るは笑うべきこと特に甚だし。雷斅が曰く、上粗皮並びに内薄皮を去り、心の中 味辛き者を取り、用ゆ。李時珍が曰く、その内外の皮を去る者を即ち桂心と為す。夫れ、骨 既に之を皮と謂うべからざる時は、すなわち皮の中に就いて、又内外の皮を去る。外粗皮 固より去るべきは始めより言うことを須(マ)たず。内面を指して、以て皮となす。既に大いに実を失う。況や、その内面は實に氣味の存する所なるをや。その氣味の存する所を去りて、その内外の中に当て、氣味あるに似て、無きに似せるの処を取りて、之を用ゆ。何の効か、之あらん。二氏の者の如きは妄説 理に背す。王好古が曰く、その皮と裏とを去る。その中に当たるものを桂心と為す。之もまた深く、心の字に泥んで、枉(マ)げて 強解を費(ツイ)やす。裏は即ち骨なり。皮と骨との間に当たるを以て、心となすは左邊 心有り。右邊も亦心有るか。何ぞ、その説の通せざることなり。総べて、心の字を用いざるを以て、正と為す。官桂は上等、官に供する桂なり。柳桂は本(モト)柳州に出ず。故に柳桂と稱す。然るに、陳承が曰く、一種の柳桂あり。乃ち桂の嫩小枝條。李時珍曰く、枝の嫩小なる者を柳桂と為す。何ぞ、その謬れるか。その意 思えらく、桂枝の最末にして嫩小なる。柳條の細糸、なお柔嫩なるがごときなり。殊に

知らず、柳は本(モト)州の名にて、柳樹の柳に非らざることをなり。この邦の葉舗 草桂枝と称するは即ち是。この桂の枝條、最も細小なる者 殆ど気味なし。なんの功效を奏せん。蓋し、下品の用を為すに堪えざるは是を以て、直ちに柳桂とするは非なり。板桂は状 薄板の如くにして、卷かず。味稍 渋にして、辛甘ならざるも亦、桂の下品。固より用ゆるに堪えず。予幼なる時、街頭に遊び、雑貨を売る者 癡児(チジ)を喚(ヨ)びて欺き(アザム)き、挙げて廢鐵に替えるを観る。即ち是れ板桂。今、再び之を見ず。筒桂は即ち箇桂なり。或いは半卷、或いは巻いて二三重、四五重に至る。皮薄く、外赤く、内紫に気味稍薄くして、微に渋を帯び、葉舗呼びて、広東の赤肉桂と為すは是のみ。この邦 近年薩摩州に出る者、稍佳なり。もって、闕(ケツ)を補うに足るなり。また、俗に藪桂と称するも亦、桂類の粗悪下品。薬用に入れられず。その他、月桂 山桂 桂草の如きは 固より異種の的識するべからざる者。巖桂 丹桂 金桂 銀桂は俱に是れ木犀。但し桂気あるによって桂の名を得るのみ。実に真の桂類に非ざるなり。按ずるに、神農本草、惟牡桂 箇桂の二種あり。牡桂は即桂なり。蘇恭が曰く、単に桂と名づくは即ち是れ牡桂。乃ち爾雅に謂うところの檜は木桂なり。花子(カシ)皆箇桂と同じ。大小枝皮 俱に牡桂と名づく。但し、大枝皮は肉理 粗虚、木の如くにして、肉少なく、味薄し。名付けて木桂という亦大桂とも云う。小嫩枝の皮は 肉多くして半ば巻き、中必ず皺起(シュウキ)し、その味辛美なるに及ばず。一に肉桂と名づくも亦、桂枝とも名づく。一に桂心と名づく。陳蔵器が曰く、箇桂 牡桂 桂心 三色同じく是れ一物と。この二説の如き、深く要領を得たり。その余、煩碎 皆取るに足らず。而もその中、最も笑うべき者は寇宗奭が曰く 本草三種の桂 牡桂 箇桂を用いざる者は此の二種 性温に止まりて、以て風寒の病を治すべからざればなり。然れども、本経 止(タダ)桂と言ひ、仲景また桂枝と云う者、枝上の皮を取るなり。李時珍が曰く、桂即牡桂の厚くして辛烈なる者、牡桂は即ち桂の薄くして味淡き者、又曰く牡桂 即ち木桂なり。その最も薄き者を桂枝となすと。神農本草 元単字の桂なし。名医別録に至って、始て桂の条を分つ。此れを謬誤の首と為す。寇氏 何によって、本経ただ桂と云うと謂うや。未だ深く考えざるのみ。況んや牡桂 箇桂 風寒を治せずと謂うは何の試すところありて、然るか。最も解すべからざるの甚だしきことなり。時珍が如きも亦、零碎に過ぎると謂うべし。予嘗って説あり。曰く、牡は牝の対。陽なり。雄なり。また強壯長大の意あり。意(オモ)うに、牡桂とは是、雄。箇桂とは是、雌。故に牡桂と称するのみ。李時珍が曰く牡桂を大桂と為す。故に箇桂を小桂と称す。大小は即雌雄なり。此れ頗る予が嘗って憶する処に近しと為す。今の市の貨売する所を視るに

交趾桂 或いは東京桂と称するものは雄桂なり。広東の卷肉桂(マキニクケイ)と称するものは雌桂なり。故に、駿発勇宣 雄なる者にあらざれば能わざるなり。緩証 雌桂もまた混用すべし。牝牡雌雄の意略や概見するに足れり。夫れ、多く称呼を立て、その殊状に随いて、新奇 名を命ずるは華人浮華の習俗のみ。これ、繁文の弊の致す所といえども、而し特に濫名に終われば、猶恕すべきなり。その濫名に就いて、猥(みだり)に臆説を加え、愈出て、愈煩わしく、竟(ツイ)に治事に害なり。謹みて、浮文に眩惑し、名に因りて、実を失う事勿れなり。また、王好古が発出の字を論ずるか、過鑿、卒かに愚昧に陥り、若し汗出と書せば、汗 自然に出て、之を發するを須たず。と猶(ナオ)、いうべきなり。發汗 出汗 何ぞ同じからざるところから、諸(コレ)此の如き類、勝(アエ)て記すべからず。予嘗って、桂の弁を著し、詳らかに桂 桂枝 牡桂 肉桂 桂心 官桂 柳桂 板桂 木桂など皆 同一物にして、惟美惡に因って、性力優劣あるのみにして、表裏の別用あるに非ざるなり。嗚呼桂は実に衆藥の長なり。之を發し、之を潤し、或いは散じ、或いは収め、善く温め、善く托くし、表裏上下 通ぜざるところなし。この張機の桂枝湯を以て、傷寒雜病論 第一方と為すを以て、傷寒金匱の諸方、多くは是れ 桂枝湯の変方なり。如し(モシ)能く此れに解会すれば、桂の効用においてなり。思い半ばを過ぎるなり。

#### (意識)

#### [試効]

傷風寒(急性熱性疾患)を治療する。發汗、解肌、中を温める、気を下す、煩躁・渴を止める、腠理を開き、關節を利する作用がある。奔豚を治療する。水道を導き、月経を通じ、難産で胎衣下らざるを治す。

癰疽・痘瘡の毒を外に押し出す。

百藥を宣導し、どこにでも作用し、畏忌して行かないところはない。

諸藥方の働きの前触れをして行く役人のようだ。

#### [撰修]

桂の選品は枝でも幹の皮でも、厚い薄いに拘らず、ただ味辛く、甘く、香気が稍烈しいものが良い。使用時、外側がざらざらした粗皮を削り取り、裏側の紫色で樹脂の多い処を取って、任意に使用する。

若し、その紫色の樹脂状の部分の味が辛く甘くないか、或いはわずかに 辛甘な味あっても、渋く浅く薄いなど悪い感じの気味を感じたならば、すべて使用するには問題がある。

そのうえ、旧説に捉われて、皮の厚さ薄さに拘泥してはならない。

必ずしも、皮の厚いものが味が濃く、薄いものが味が薄いとは限らない。

薄い皮であっても、味の濃いものは使用した方がよい。



今、海を渡ってくるものは交趾桂と東京桂である。皮が厚くても、味の薄いものが時々流通している。今の松浦桂心と称するものは決して用いてはいけない。わが国にも生産されている。が良い品物が少ない。

また考えるのに、李時珍 本草綱目では龐安時の説を引いて、「炒り過ぎた桂は、胎児に損害を与えない」とある。ああ、桂は果たして炒るべきものなのだろうか。

一般に、匂いのあるものは殆ど火で炒る行為を忌む。多くの物が普通そうなのではないか。

桂が火により炒られれば、気味も共に脱し、全く効果のない鈍物となる。

もし、この気と味とが共に脱し、全く効果のない鈍物を取り挙げて、このような修治を経た生薬を配合するのは配合しないのと同じだ。寧ろ害がなければ幸いである。

いうまでもなく、産前に桂を忌避したであろうか。昔から言われていることだから、命を落とすことはない。何で畏れることがあろうか。

#### 〔弁正〕

桂は桂の皮そのものである。桂や幹 厚い者や薄い者などを混ぜて使用しなさい。すべて、これを桂と言う。また桂枝と称する。

私が観察するのに、そのまま桂皮というのが最も適当である。

私見であるが、昔 桂を伐る時に、その枝を切って、皮を取り、之を用いたので、桂枝と云った。のちに、多方面に人の利用範囲が広くなり、枝だけでは足りなくなったので、幹も一緒に使うこととなった。

ここで初めてその樹木の幹の厚い皮を切って、干し肉のようなものを肉桂と呼んだ。

最後には桂の字に付けて熟語とし、誤って肉桂とした。

若い小枝の皮を、別に桂枝としたので、誤りということが出来る。

思うに、桂 桂枝 肉桂 桂心 官桂 柳桂 板桂 みんな同じもので、ただ良い品かどうかによって、薬性の力に優劣があるだけだ。

李時珍の本草綱目を引用すると、ただ蘇恭・陳藏器の二説がある。非常に要領よく説明されているので、二説を参考にすると良い。

その他の諸説には従ってはいけない。

靈樞が初めて桂心と称したが、心の字は大いに適正ではない。

何となれば、心とは中心のことである。一般に枝の皮を剥ぎ取り、その中心を骨と呼んで棄て去るべきもので、これを芯という。桂の幹の骨と言っても同じである。

これ 桂の棄てる骨は粗悪で味はない。本来、使用するところではない。

今、皮の裏面を 何で心と謂うのだろうか。

生薬名に心の字を付けて命名するのは妥当ではない。

燈心草という植物がある。これはその草の火を

つけるべきところを心と言う。

若し、その植物の草皮・裏面を心と呼ぶならば、草皮裏面に火をつけて燃やすことが出来ない。なぜ、これを燭心としているのだろうか。

このように、草の皮裏面を心と呼ぶことは出来ないことを知る時は桂皮の皮裏面もまた心と呼ぶことが出来ないのは検討しなくても明らかなことである。

その他の心と呼ぶ物は皆 物の中心を謂っている。

天門冬心 麦門冬心の類のように。

だから、桂心と称するのはもっとも甚だしい誤りである。

後世、遂に心の字について内面を指し、妄りに鑿説を造るのは甚だしくおかしなことである。

雷斅は上粗皮とともに内の薄皮を去り、心の中で味の辛い物を取り使用する。李時珍はその内外の皮を去った物を桂心とする。

一般に、骨を既に皮と云うことが出来なければ、皮の中もまた内外の皮を去るが、外粗皮は固より去る必要があり、始めから内面を指して、皮とするのは既に真実ではない。況やその内面は実際には気味が存在するところであるが、その気味の存在するところを去って、その内外の中で、気味があるように、無いところを見せて、之を使用する。何の効果があるのだろうか。

雷斅・李時珍の説は妄説で真理に反する。

王好古はその皮と裏とを去り、その中間に位置する所を桂心としている。

これも深く、心の字に拘泥して、無理に強引な解説をしている。

裏は骨そのものである。皮と骨との中間を心とするのは左側に心があり、右側にもまた心がある。

なんとその説の理解できないことか。

すべて、心の字を用いないのが正しい。

官桂は上等な良い品物で、官に提供する桂である。

柳桂は本来、柳州に産出したので、柳桂と称した。

しかるに、陳承は「一種の柳桂がある。桂の若い小枝である。」と。李時珍は「枝の若く小さいものを柳桂」と言う。

何と、その説の誤っていることか。

その意を考えるのに、桂枝の最も末端の部分で若く小さい。細糸の柔らかく若い柳の枝に似ている。柳は州の名であって、柳の樹木の柳ではないことを特に知らない。

我が国の薬舗で、草桂枝と称するものがこれである。

この桂の枝、最も細いのは殆ど気味がなく、何の効果も發揮しない。

思うに、下品で使用するのに不十分な桂枝を直ちに柳桂とするのは間違いである。

板桂は形が薄板のように巻かない。味は稍渋く、辛甘ではないので、桂の下品で、もともと使用するには不向きである。

私（香川修庵）が幼い時のこと、街頭で遊んでいる時、雑貨を売る者が愚かな子供を呼んで、だまして高く持ち上げて、廢鐵に替えるのを見

たことがある。これが即ち板桂であった。現在は見る事がない。  
筒桂は箇桂そのものである。或いは半卷、或いは二三重または四五重に巻いている。  
皮薄く、外面は赤く、内面は紫色で、気味は稍薄く、微かに渋みを帯びる。  
薬舗で広東の赤肉桂としているのがこれである。我が国は近年、薩摩に出るものが稍良いので、桂の不足している時は補うのによい。また、俗にヤブニッケイと称するものも亦、桂類の粗悪で下品である。薬用にはしない。  
その他、月桂 山桂 桂草のように固より桂とは異種のものである。  
巖桂 丹桂 金桂 銀桂はともに木犀。但し桂に似た芳香があるので、桂の名を持っているのだ。実際に真の桂の種類ではない。  
考えるのに、神農本草経には惟、牡桂 箇桂の二種がある。  
牡桂は即ち桂である。蘇恭が単に桂と名づくのは牡桂である。乃ち爾雅に謂うところの侵は木桂である。花や実はみんな箇桂と同じである。大小の枝皮はともに牡桂と名づく。  
但し、大枝の皮は肉理粗く、うつろで木の様で肉が少なく、味は薄い。木桂と名づけ、大桂ともいうが、小さな若い枝の方が品物は良い。小さく若い枝の皮は肉が多く、半ば巻き、内面は必ず皺起し、その味は辛美。一名 肉桂。桂枝。桂心と名づく。  
陳蔵器は箇桂 牡桂 桂心 ともに同じで、一物である。と  
この二説深く要領を得ている。その他の説は煩わしく、皆取るに足らない。  
而もその中でもっとも笑うべきことは寇宗奭の説である。  
桂 牡桂 箇桂三種の内の二種は薬性が温なので、傷寒の病を治すことが出来ない。しかし神農本草経は只桂と言ひ、仲景も亦、桂枝という。これは桂の皮を取っている。  
李時珍がいうのには桂は即ち牡桂の厚くして辛烈なもの。  
牡桂は即ち桂の薄く、味淡くまた、牡桂は木桂である。その最も薄いものを桂枝とする。と。  
神農本草経は元来、単に一字の桂と言うものはない。  
名医別録になって始めて、桂の条をわけている。これは根本的な間違いである。寇氏は何によって、本経にはただ桂があると知っているのか、未だ深く考えなかつたのであろう。  
牡桂箇桂が風寒の病を治せないというのは何か治験をえての結論だったのだろうか。  
最も甚だしく理解できない。  
李時珍においても亦、落ち砕けた過(アヤマリ)と謂うことが出来る。  
私(香川修庵)がかって用いたことがある説によると、牡は牝の対で、陽であり、雄であり、また強壯長大の意もある。

思うに、牡桂は雄で、箇桂は雌であるから、牡桂と称するのである。  
李時珍は牡桂を大桂とし、従って箇桂は小桂である。大小は雌雄のことである。  
この説は、私がかつて、憶えた所に非常に近いと言える。  
現在、町で販売するところを視ると交趾桂あるいは東京桂と称するのは雄桂。  
広東の卷肉桂と称するのは雌桂であるので、古来から雄なるものでなければ、駿発勇宣の作用を期待することが出来ない。緩證には雌桂もまた、混ぜて使用すべきである。  
牝牡・雌雄の意味はざっと見ただけで十分である。一体全体、多くの呼び名の候補をあげて、その特徴のある状態に従って、新しい奇名を命名するのは華人(中国人)の浮華の習いであるのだ。これ繁雑な弊害の結果であるが、ただ、汎濫した名で終われば、猶許すべきことであるが、その濫名について、妄りに臆説を加え、いよいよ煩わしく、竟には治療に害となる結果になるのは、よろしくない。  
謹んで、軽い、内容のない名により実を失うことがないようにしたい。  
また、王好古が発出の字を論ずるが過鑿し、卒かに愚昧に陥り、もし、汗出と書けば、汗が自然に出て、之を発汗させる必要がないとまで、いうことが出来る。  
発汗・出汗は同じことではないのか。かくの如きの類は無理に記す必要はない。  
私(香川修庵)がかつて、桂の弁を著し、詳らかに桂・桂枝牡桂・肉桂・桂心・柳桂・板桂・木桂など皆同一物にして、ただ 良悪によって薬性の力に優劣があるのみで、表裏の別に使用するという事ではない。  
ああ、桂は実に多くの薬の長である。  
発し、潤し、或いは散じ或いは収れんし、善く温め、善く毒を体外に押し出すなど、表裏上下流通しないところはない。  
この張仲景は桂枝湯を傷寒雜病論の第一方としたので、傷寒論・金匱要略の諸方の多くが桂枝湯の変方である。  
もし、能く変方を理解し納得するには、桂の効用を十分に知る必要がある。  
思ひは未だ半分過ぎない。

# 生薬の有用性散策 (11)

## —熱性疾患に用いる生薬の探索:古典類の活用—

● 元北里大学 生命科学研究所 布目 慎勇 ●

### 1. はじめに

昨年、北里大学の太田智特別栄誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞した。寄生虫感染症の新たな治療法を発見し、多くの人々を感染症から救ったことが高く評価された結果である。感染症は人類史上で最大の疾患であり、インフルエンザ、AIDS、SARS、エボラ出血熱、ジカ熱など今なお世界に不安を与えている。

古代中国においても漢方の原典となる『傷寒論』(張仲景、漢代)には、腸チフスやインフルエンザ、マラリアのような急性熱性疾患に対する診断と治療が述べられている。近世以前の中国は現代よりも気温や湿度が高く、緑豊かな地域が多かったことが知られており、黄河以南の地域にはマラリアのような熱性疾患が多発していたのであろう。

薬物面でも『神農本草経』(後漢頃)には365種の生薬が記載され、その約半数が熱性疾患に関わるものである。以後医学の進展に伴い開発された生薬も増加し、『本草綱目』(李時珍、1596)には約1,900種、『中薬大辞典』(江蘇新医学院、1977)には約5,800種が記載されており、やはり「熱」に関するものが多い。

かつて熱性疾患に使用する生薬から活性物質の探索を行ったことがあり、どのように可能性の高い生薬を選び出すかがポイントであった。そこで基礎資料となる本草書類をもとに生薬を選び出すことにしたが、種類が多いためかなり煩雑な作業となった。ここでは一般的な探索手順の要点を述べ、熱性疾患、特にマラリアに用いる生薬の探索を記すとともに、活性物質が見出された「了哥王根」(リョウカオウコン)について触れることとした。

### 2. 文献による生薬探索の概略

#### 1) 本草書等の利用

生薬を選び出すには一般に各種文献やインターネット、或いは知人などから情報を得、“良さそうな”生薬をリストアップする。種類が多い場合はさらにランク付けするなどして絞り込んだ後、現物を入手することになる。直接生薬市場に赴き、聞き込みにより入手する方法もあり、意外なものが入手できる場合もあるが、効率はよくない。

生薬関係の書籍は世界各地で出版されており、なかでも中国の出版物が質、量とも圧倒的に多い。中薬の探索に用いる書籍は本草書が中心となり、代表的なものとして宋代以前の本草書の記述を

集成した『大観本草』(艾晟、1108)や明代の『本草綱目』がある。現代ではそれら本草書に現代研究などを追加し集大成したものとして『中薬大辞典』や『中華本草』(国家中医薬管理局、1999)があり、後者には約9,000種が記載され、利用価値が高い。記載生薬数が多い中薬辞典として、12,500余種の生薬を記した『中薬辞海』(中国薬科大学等編、1998)があるが、記述が簡略であり、探索には不向きである。いずれにせよそれら本草書はしばしば原典の記述の簡略化や省略があり、要点を見落とす恐れもあるので、必要に応じて原典も調べることになる。

その他の古典にも生薬を記したものがあり、例えば『食物本草』(鄭金生等校点、1990)や『毒薬本草』(楊倉良、1993)、本草書以外に、『医学入門』(李梴、1575)などの医書や『太平御覧』(李昉等、983)などの百科全書にも生薬が記載されており、しばしば探索の参考となる。

#### 2) リストアップとランク付け

本草書から目的の生薬を手っとり早く探索するには、和訳本で『国譯本草綱目』(春陽堂、1975)や『中薬大辞典』(小学館、1985)が挙げられ、索引も充実しており、便利である。索引からリストアップした生薬の薬能を調べる際、用語の意味が不明なものや曖昧なものがあり、用語辞典のみでは判断に迷う場合も少なくない。予め目的とする疾患や病状を把握するため、病源や病理、病状などを解説した『諸病源候論』(唐代、巢元方)や『医学入門』などに目を通しておくとう理解や選択に役立つことが多い。

検索に際し、調べる生薬や述語が多くなると、索引の利用はかえって煩雑になることがある。むしろ直接個々の生薬に記された薬能を解説しリストアップした方が特徴やポイントを把握しやすく、新たな発見に繋がることもある。

熱性疾患に用いる生薬のように種類が多い場合、選び出した後整理とともにランク付けを行うが、ポイントは作用の特徴や強さ、現代研究の進展度、基原や品質の複雑さ、入手の難易度などである。さらに研究開発の可能性や有用性の高さも加味して総合的に判断して入手する生薬を絞り込むが、担当者の知識や経験など総合的力が要求される。

#### 3) 生薬の入手と品質の確認

通常生薬は業者や知人、共同研究先などを通じて、或いは直接現地にて入手する。中国産生薬は同名異物や代替品なども多いため、入手し得た材料は産地や別名などの情報も記し、文献



に基づき形態や性状から基原を確認する。また生薬は天産物のため、同一基原であっても産地や採集時期、加工処理、保存状態などの違いによりしばしば成分組成に大きな差が見られることがあるので、HPLCなどにより成分組成のパターンを把握しておく。再度材料を入手する際、品質の同一性を明らかにしておくことは、実験の再現性を確保する上で必要な作業となる。

### 3. 傷寒病(熱性疾患)に用いる生薬の探索

傷寒病は外感による熱性疾患であり、マラリアなどの感染症を指すといわれる。マラリアは今なお年間数十万人が命を落とす感染症で、薬剤耐性のマラリアも世界に拡散しており、新たな治療薬が求められている。以下に熱性疾患、特にマラリアに有効な物質を見出すべく病状を把握し、次いで『中華本草』に記された生薬を調査することとした。

#### 1) 主な傷寒病の症状

発熱する原因には感染症、悪性腫瘍、脳疾患、膠原病、アレルギーなどがあり、感染症に基づく場合が最も多いが、その病状は必ずしも単純ではない。『諸病源候論』には熱病に関して、瘧病(マラリア)を始め蒸病、傷寒病、時気病、熱病、冷熱病などの項目があり、当時から熱病の解釈が複雑であったことが窺える。傷寒病の主なものマラリア、腸チフス、インフルエンザであり、それらの病状と『諸病源候論』の記述および『中華本草』に記された生薬の薬効などを比較検討し、探索の手がかりとした。

マラリア、腸チフス、インフルエンザの主な症状は次のとおりである。

a) マラリアは原虫の種類や症状により卵形マラリア、三日熱マラリア、四日熱マラリア、熱帯熱マラリアがあり、近年異なったタイプも見つかっている。いずれも発症すると悪寒、40度近くの高熱、頭痛、倦怠感に襲われる。三日熱マラリアと卵形マラリアは約48時間毎に、四日熱マラリアは72時間毎に高熱に襲われる。熱帯熱マラリアは周期性が薄く、36~72時間の間隔で発作が起き、特に死亡率が高く約20%に及ぶ。

b) 腸チフスの主な症状は発熱、頭痛、関節痛、咽頭痛、便秘、食欲減退、腹痛。体温は39.4~40度が10~14日続き、以後徐々に下降し正常値に戻る。

c) インフルエンザは急な悪寒、発熱、頭痛、咽頭痛、咳、鼻水などの症状がみられる。

#### 2) 『中華本草』による生薬の探索

探索に際し、熱性疾患に関する述語を知るには前例が役に立つ。例えば中国の屠呦呦氏は黄花蒿(クソニンジン)からマラリアに有効な物質アルテミシニンを見出し、昨年ノーベル賞を受賞しているが、黄花蒿および近縁種の薬能に記された述語が参考になる。マラリアの症状を想

起させる述語として瘧以外に傷寒、潮熱、寒熱、煩熱、悪熱、寒熱往来などが挙げられる。また「熱」に関わる生薬の薬能として清熱、清熱解毒、清熱瀉下、清熱除煩、発散風熱などがある。これら述語をもとに生薬の薬能の記述を調べ、リストアップするとともにランク付けを行う。

通常索引に記された述語から生薬を検索するが、なかには索引の述語には引っかけられない病状や薬効の表現もある。例えば「骨蒸」とは骨が蒸されるほど発熱している状態であり、現代では女性の更年期障害の一種であるホットフラッシュの症状と解釈される。しかし古医書に登場する骨蒸はマラリアの症状と見なすことも可能であり、生薬の薬能のなかにも骨蒸の文字が見出され、選り出す対象となる。

熱性疾患に関わる生薬はかなり種類が多く、『中華本草』の索引には瘧の付いたものは300種ほどあり、また清熱を付したものは約3,000種挙げられ、整理するには相当の手間を要する。索引に載らない述語の漏れを考えると、むしろ個々の生薬の薬能を調べ、上記の述語などを参考に選り出した方が的確で時間の短縮にもなる。

#### 3) 絞り込みの基準

リストアップした後、絞り込みやランク付けを行う基準として、薬能の記述に特徴のあるもの、作用の強いものや毒性のあるもの、研究が未着手のものは順位が高い。作用の強さは一日用量3g以下がおよその目安になるが、木質部を含む根や枝などエキス含量が低いもの、特定成分の含量が高いものはこの限りではない。基原の複雑なものや入手困難なもの、研究が進展したものはランクが低く、また薬能に瘧と記された生薬も既に着手済みと見られ、アッセイ系が類似の場合は可能性が低い。なおランクが高いものでも、既に活性の認められた生薬とケモタキソノミー上近縁なものは活性成分も共通していることがあり、注意を要する。

こうして選択した生薬は業者などを通じて、或いは現地にて入手し、基原や品質を確認した後、スクリーニングを行うことになる。

入手し得た生薬について抗マラリア活性を指標にスクリーニングを行ったところ、了哥王根に活性物質が見出されたので、以下に略記した。

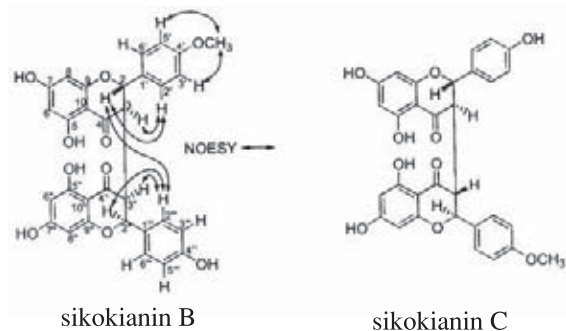
### 4. 了哥王根から活性物質の探索

了哥王根はジンチョウゲ科の低木、了哥王 *Wikstroemia indica* (L.) C. A. Meyerの根であり、原植物は中国南部からフィリピン、インド、オーストラリアにかけて分布する。了哥王根は広東、広西地方の民間薬を集成した『嶺南採薬録』(蕭歩丹編、1932)に記載され、比較的作用が強く有毒と記されることもある。薬能として清熱解毒、利尿、瀉下、殺虫などが挙げられ、肺炎、気管支炎、腎炎、足腰の痛みやリウマチなどに用い

られるが、マラリアに対する応用や研究は見当たらない。

了哥王根から活性物質を見出すべく、水・エタノールで抽出し、濃縮後、酢酸エチル層、ブタノール層、水層に分配してエキスを作製し、抗マラリア活性を検討した。その結果ブタノール層に活性が見出され、さらに分画を行い活性物質としてビフラボノイドのsikokianin B、C(図)を単離することができた(Planta Med 2004 ; 70 : 76-78)。

今回は古典を活用した生薬の探索手順を略記し、活性物質を見出した例を記した。長寿化した現代ではかつてみられなかった生活習慣病などの疾患が起きており、今後も生薬の探索の際には古文献が活用できるであろう。



(図) 了哥王根から単離した抗マラリア活性物質



了哥王根

# ・ 委員会だより ・

## 総務委員会

委員長 菅沢 邦彦

### 総務委員会の開催

平成28年度の第1回総務委員会を平成28年4月19日(火)に開催した。

#### 1. 委員長、副委員長選出

平成28年度総務委員長、副委員長が以下のとおり承認された。

委員長 菅沢邦彦

副委員長 坪井正樹

#### 2. 総務委員会委員について

総務委員会の委員には各委員会の委員長、副委員長を充てることとした。

ついては、以下の2名が新たに総務委員として就任された。

・薬用植物国内栽培事業委員会

三村明義 副委員長

・広報委員会

池村国弘 副委員長

#### 3. 平成28年度 第1回理事会において以下の審議事項が承認された

(1) 平成27年度事業報告書(案)と収支決算書(案)

(2) 任期満了に伴う役員改選について

(3) 顧問の推薦について

赤須通範氏が顧問として承認された。

#### 4. 会費規程の一部改正、個人情報保護規程制定について

「寄附による会費の減免」の条項を新設した。また「特定個人情報保護に関する基本方針」と「個人情報保護に関する基本方針(プライバシーポリシー)」を定めるとともに「個人情報保護規程制定」が承認された。

#### 5. 会員の入退会について

平成28年5月25日現在会員数139名(法人正会員44名、個人正会員49名、サポーター46名)

#### 6. 平成28年度第1回総会招集通知について

日時：平成28年6月15日(水)17:30~18:30

会場：東京薬事協会2F会議室

## 学術委員会

委員長 山内 盛

前号以降、委員会は4回(11月18日、2月3日、3月16日、4月13日)開催した。

### I. 委員会担当イベント担当者を決定した。

「薬草観察会」磯田・和田、「生薬に関する懇談会」山内・清水・小根山、「薬用植物・生薬に関する講座」三村、「新常用和漢薬集の改訂」松尾、「薬草クイズラリー」海老原、「薬用植物指導員認定者フォローアップ研修」清水・天川、「局方原案作成審議委員会」武田・菊地・山路

### II. 委員会担当イベント

#### 1. 「春の薬草観察会」

5月29日(日)弘法山にて実施した。

#### 2. 「薬用植物・生薬に関する講座」

「生薬・漢方による治療・養生」をメインテーマに5回開催することを決定した。

第1回 2016年9月25日(日)

・洋の東西に養生を尋ねて 山内 盛  
・心安らぐ漢方 柞淵 彰

第2回 2016年10月30日(日)

・曲直瀬道三に学ぶ養生法 庄司良文  
・女性が美しくなる漢方 高木嘉子

第3回 2016年11月27日(日)

・今に生きる伝統薬 清水虎雄  
・母子のための漢方 崎山武志

第4回 2016年12月18日(日)

・漢方処方に使われる薬用植物について 和田浩志  
・漢方で快適な冬を過ごす 新井 誠

第5回 2017年1月22日(日)

・薬膳による養生の世界 原 三貴  
・中高年が常備薬とする漢方 山田亨弘

#### 3. 「薬用植物指導員認定者フォローアップ研修」

4月24日(日)「てのひら薬草園」整備：QRコード貼付作業を実施した。

5月19日「ケシ等の見学・研修」を実施した。

#### 4. 「第32回生薬に関する懇談会」

日本生薬学会関東支部との共催で12月3日(土)星薬科大学に於いて「五味子」をテーマに実施することに決定した。

### III. 「新常用和漢薬集改訂作業」

10品目の審議終了した：カイカ、ゲンチアナ、シコン、シツリシ、ジコッピ、ドクカツ、ハマボウフウ、モクツウ、モッコウ、リュウタン



# 薬用植物園事業管理委員会

委員長 加賀 亮司

## 1. 平成27年度事業管理報告

- (1) 平成27年度受託事業費の収支  
堅調な執行状況で、受託事業費49,662,634円を過不足なく執行した。
- (2) 普及啓発・研修業務  
薬草教室を8回、薬草観察会を2回、その他20イベント(草屋舎共催事業12回、東京薬事協会共催1回を含む)を開催予定し計画通り実施した。
- (3) 年度別来園者数

H19年度	124,511人	H20年度	125,121人
H21年度	119,941人	H22年度	119,859人
H23年度	135,709人	H24年度	126,285人
H25年度	123,748人	H26年度	128,678人
H27年度	125,703人		

- \*平成19年度より事業受託開始
- \*平成20年度より月曜日を閉園日(4月~6月除外)
- \*平成22年度より草屋舎事業開始
- \*平成27年度集計数  
4、5月に研修室横からの集計されない入場者があり、これを考慮すると同等の入場者であったと思われる。

## 2. 平成27年度業務管理報告

受託業務を推進するため次のような契約を行った。

- (1) 雇用関係  
契約社員 5名  
受付係員パート 1名  
事務係パート 1名  
農作業パート 10名
- (2) 建物管理  
6社と契約をした。

## 3. 委員会活動

- (1) 平成27年度委員会  
定期委員会を年4回、ワーキンググループを年5回開催し、事業管理の審議とイベント内容の検討を行った。
- (2) 平成28年度委員会  
定期委員会を年4回、ワーキンググループを年4回の開催を予定し、事業運営を審議する。

## 4. 平成28年度事業計画

東京都と連携し月1回の栽培報告会と栽培連絡会を開催し、前年同様の栽培管理体制により適切な管理を行う。

普及啓発事業として薬草教室を8回、薬草観察会を2回、その他イベントを20回(草屋舎共催事業12回と(公社)東京薬事協会共催事業1回を含む)計画している。

# 薬用植物国内栽培事業委員会

委員長 巽 義男

## 1. 第6回薬用植物国内栽培事業委員会

1月28日付書面決議にて委員長、副委員長の選任を行い、賛成多数により、委員長 巽 義男(ウチダ和漢薬)、副委員長 三村明義(常磐植物化学研究所)が可決された。

## 2. 平成28年度第1回栽培指導員会、薬用植物国内栽培事業委員会(4月12日開催)

・今年度方針

- (1) 秋田県八峰町(栽培指導員:和田、加賀、白鳥)  
カミツレ約50kgの収穫を目指す。キキョウは112.2アール植え付け予定。ペーパーポット、マルチを用いた直播密植法の2種にて栽培法の検討の予定。その他、基盤研和歌山栽培試験所の移植薬用植物(シクヤク等)やウイキョウなどは維持栽培を継続。栽培指導員の派遣は年3回の予定。
- (2) 秋田県美郷町(栽培指導員:和田、加賀、白鳥)  
キキョウは八峰町とほぼ同様な栽培法を検討の予定。カンゾウは芝野先生(大阪薬科大)分譲のストロン等について約3アールで増殖の予定。エイジツについては会員会社から美郷町に依頼のため、協会として状況把握に努める。栽培指導員の派遣は年8回の予定。
- (3) 新潟県新発田市(栽培指導員:岡田、田中)  
ミシマサイコ、ヤマトトウキ、ハッカ、シクヤクの増産を計画し、ハトムギ、アミガサユリ、カワラヨモギ、エビスグサなどについて量産化に向けて栽培法を検討する。栽培指導員の派遣は年8回の予定。
- (4) 新潟県新潟市(栽培指導員:岡田、田中)  
種苗提供基地を目指し、ミシマサイコ、トウキ、ハッカ、カワラヨモギ、キキョウなど(現在34種、将来は50種)について栽培法を確立する。栽培指導員の派遣は年8回の予定。
- (5) 福井県高浜町(栽培指導員:小谷、磯田)  
ゲンノショウコ、ミシマサイコの増産を計画。自生のゴシュユについては基原植物を明確にする。栽培指導員の派遣は年8回の予定。
- (6) 岐阜県岐阜市(栽培指導員:高橋、川又、田中)  
ハトムギ、キキョウ、カワラヨモギ、ミシマサイコ、ジオウ、トウキなどについて栽培指導を継続。栽培指導員の派遣は年5回の予定。
- (7) 大分県杵築市(栽培指導員:山上、酒井)  
40~50種の種苗提供基地を目指して栽培指導の予定。栽培指導員の派遣は年12回の予定。

### 3. 秋田県美郷町連携協定締結式

平成28年4月26日(火)、秋田県美郷町役場にて、美郷町、医薬基盤・健康・栄養研究所、当協会の3者連携協定を締結した。

## 広報委員会

委員長 野田 吉孝

「会報」461号をお届けいたします。

平成28年4月に薬用植物国産化に向けて秋田県美郷町との栽培連携協定を延長し、栽培の促進、指導を行い、国内での生薬栽培を進めております。今後とも当協会の活動の一つとして国内での生薬栽培推進に取り組んでいきたいと考えており、その活動報告をしてまいります。

一方、ホームページのアクセス状況ですが、訪問数・ユーザー数・ページビュー数いずれの指標についても、引続き対前年比で120~140%台の増加傾向にあり、当協会の活動に関する関心の高さを示しております。

内容別では、新常用和漢薬集・栽培事業等に年間を通じて安定したアクセスがあり、さらに上半期には開花情報へのアクセスが伸びることにより、全体のアクセス数を押し上げることができています。

### ■ホームページのアクセス状況

期 間	訪問数	ユーザー数	ページビュー数
2014.04.01~2014.09.30	27,750	17,334	99,769
2014.10.01~2015.03.31	25,931	16,773	73,405
2014(平成26)年度合計	53,681	34,107	173,174
2015.04.01~2015.09.30	41,752	27,406	120,206
2015.10.01~2016.03.31	33,259	22,415	90,262
2015(平成27)年度合計	75,011	49,821	210,468
下期 前年同期比	128.3%	133.6%	123.0%
通年 対前年比	139.7%	146.1%	121.5%

また、当協会が主催する最新のイベント情報を掲載しましたので、多くの会員の皆様などにご参加していただきたいと思っております。

当協会に関してのご感想やお気づきの点がありましたらお知らせください。

## 30年分の講演要旨集が3巻にまとまりました。



各巻 価格 1,000円

購入希望の方は下記口座へお振り込みください。

(振込手数料：本人負担)

郵便振替 口座番号 00120-0-485550

加入者名 公益社団法人東京生薬協会

1・2・3集 セットで 3,000円

送料 3巻まで 180円

合計 3,180円

セット分割の場合の送料も180円です。

※価格は全て税含です。

# 連絡事項

## I. 平成27年度第3回理事会・第2回総会

### 第3回理事会

日 時：平成28年3月8日(火)16:30~18:00

場 所：東京生薬協会東神田事務所

### 第2回総会

日 時：平成28年3月24日(木)18:30~19:30

場 所：東京薬業厚生年金基金会館

議案・報告事項：

- (1)平成28年度事業計画書(案)、収支予算書類(案)について
- (2)理事の退任に伴う後任者の選任について
- (3)定款及び規程の一部変更について
- (4)委員会委員、委員長・副委員長の退任新任、栽培指導員の新任について
- (5)相談役の推薦および退任について
- (6)会員の入退会について
- (7)平成28年度の東京都薬用植物園業務委託契約の更新について
- (8)ふれあいガーデン共同事業の契約更新について
- (9)新発田市との薬用植物栽培連携協定締結について
- (10)美郷町との薬用植物栽培連携協定締結について
- (11)委員会報告
  - 1)総務委員会：菅沢委員長
  - 2)学術委員会：山内委員長
  - 3)広報委員会：野田委員長
  - 4)事業管理委員会：加賀委員長
  - 5)薬用植物国内栽培事業委員会：巽委員長
- (12)その他

## II. 平成28年度第1回理事会・第1回総会

### 第1回理事会

日 時：平成28年5月25日(水)16:30~17:00

場 所：東京生薬協会東神田事務所

### 第1回総会

日 時：平成28年6月15日(水)17:30~18:15

場 所：東京薬事協会 2 F 会議室

議案・報告事項：

- (1)平成27年度事業報告書(案)、収支計算書類(案)について
- (2)任期満了に伴う役員改選について
- (3)会費規程の一部変更について
- (4)顧問の推薦について
- (5)個人情報保護法規程について
- (6)会員の入退会について
- (7)美郷町薬用植物栽培連携協定締結式について
- (8)委員会報告
  - 1)総務委員会：菅沢委員長
  - 2)学術委員会：山内委員長

3)広報委員会：野田委員長

4)事業管理委員会：加賀委員長

5)薬用植物国内栽培事業委員会：巽委員長

(9)その他

## III. 平成28年度第2回理事会

日 時：平成28年6月15日(水)18:15~18:30

場 所：東京薬事協会 2 F 会議室

議案：

### 1. 役付理事の選定について

P18 新役員名簿参照

## IV. 行事報告

### 1. 平成28年度薬草教室

(1)第1回

開催日：平成28年4月4日(月)10:00~11:30

場 所：東京都薬用植物園

テーマ：日本の桜~ソメイヨシノの起源を解明~

講 師：中村郁郎(千葉大学教授)

参加者：76名



薬草教室 4月

(2)第2回

開催日：平成28年5月26日(木)10:00~11:30

場 所：東京都薬用植物園

テーマ：森に学ぶ~樹々が森をつくる~

講 師：杉本和永(玉川大学元教授)

参加者：113名



薬草教室 5月



## 2. 春の薬草観察会

開催日：平成28年5月29日(日) 10:00~15:00  
場 所：弘法山（秦野市）  
講 師：磯田進、鈴木幸子、高橋宏之、南雲清二、  
和田浩志（五十音順）  
参加者：81名



薬草観察会集合写真

## 3. 秋田県美郷町生薬栽培地視察及び栽培連携協 定締結式

開催日：平成28年4月26日(火)~27日(水)  
場 所：秋田県美郷町役場  
内 容：生薬栽培地見学、栽培連携協定締結式  
参加者：10名



美郷町連携協定締結式 調印



美郷町連携協定締結式



美郷町連携協定締結式 集合写真

## 4. 福井県高浜町ハーバルビレッジ・オープニング式典 記念植樹、町民大学講座

開催日：平成28年5月5日(木)、6日(金)  
場 所：青葉山麓ハーバルビレッジ  
参加者：100名



ハーバルビレッジ テープカット



ハーバルビレッジ記念植樹 山下所長、末次専務理事



町民大学講座



町民大学講座 小谷先生

# 新 役 員 名 簿

役職名	氏 名	勤務先及び役職名
会 長	藤井 隆太	株式会社龍角散 代表取締役社長
副 会 長	上原 明	大正製薬株式会社 代表取締役会長
〃	塩澤 太朗	養命酒製造株式会社 代表取締役社長
〃	加藤 照和	株式会社ツムラ 代表取締役社長
専務理事	末次 大作	個人正会員
常務理事	建林 佳壯	株式会社建林松鶴堂 代表取締役社長
〃	吉江 紀明	株式会社太田胃散 常務執行役員研究開発部長
〃	渡邊 康一	三宝製薬株式会社 代表取締役社長
〃	堀 厚	救心製薬株式会社 取締役副社長
〃	立崎 仁	株式会社常磐植物化学研究所 代表取締役社長
〃	竹内 眞哉	株式会社山崎帝國堂 専務取締役
理 事	内田 尚和	株式会社ウチダ和漢薬 代表取締役社長
〃	柴田 和夫	クラシエ製薬株式会社 CSR・渉外部 部長
〃	山崎 充	株式会社金冠堂 代表取締役社長
〃	濱野 元信	株式会社一本堂 代表取締役社長
〃	大泉 高明	株式会社大和生物研究所 代表取締役社長
〃	小谷 宗司	長野県製薬株式会社 薬制部
〃	山内 盛	個人正会員
〃	樋口 隆	三国株式会社 東京支店支店長
〃	堀内 邦彦	株式会社浅田飴 代表取締役社長
〃	斎藤 和興	株式会社セネコム 代表取締役社長
監 事	渡邊 方乃	株式会社いろは堂薬局 専務取締役
〃	坂口 眞弓	一般社団法人浅草薬剤師会 会長

任期:平成28年6月15日から2年以内に修了する事業年度のうち最終のものに関する「定時総会の終結時」まで

● 公益社団法人東京生薬協会 平成28年度事業・イベント一覧

事業		テーマ	日程	場所	講師(敬称略)	人数	
1号事業 (学術委員会)	薬草観察会	春	春の薬草観察会	平成28年 5月29日(日)	弘法山(秦野市)	和田・高橋・磯田・鈴木・南雲	81
		秋	秋の薬草観察会	平成28年10月予定		和田・高橋・磯田・鈴木・南雲	
	生薬に関する懇談会	第32回	五味子(ゴミシ)	平成28年12月 3日(土)	星薬科大学	日本生薬学会と共催	
	薬用植物・生薬に関する講座 (テーマ:生薬・漢方による治療・養生)	第1回	中国伝統医学の歴史 心安らく漢方	平成28年 9月25日(日)	東京都薬用植物園	山内盛(東京生薬協会 学術委員長)、村浦彰(青山学院クリニック院長)	
		第2回	曲直瀬道三(啓道集)に学ぶ養生法 女性が美しくなる漢方	平成28年10月30日(日)	〃	庄司良文(漢方私塾道生和会幹事)、高木 薫子(ヨシコクリニック院長)	
		第3回	日本の伝統薬解読 母子のための漢方	平成28年11月27日(日)	〃	清水 虎雄(東京都薬用植物園元園長)、嶋山 武志(聖マリアンナ医科大学客員教授)	
		第4回	漢方処方に使われる薬用植物について 漢方と西洋薬の融合による治療・養生	平成28年12月18日(日)	〃	和田 浩志(東京理科大学薬学部准教授)、新井 信(東海大学医学部准教授)	
第5回	薬膳による養生の世界 中高年が常備薬とする漢方	平成29年 1月22日(日)	〃	原 三貴(イスクラ産業株式会社)、山田 享弘(金匱会診療所 所長)			
新常用和漢薬集の改訂	旧版収載の和漢薬(236品目)について内容を見直し、ホームページに106品目公開中、現日本薬局方(17局)と照合し、改訂作業を実施						
1号事業 (総務委員会)	薬草収穫感謝の会	生薬・薬用植物の一年の収穫を感謝し、講演会、植物観察会を開催する。	平成28年11月 5日(土)	東京都薬用植物園	共催:東京都、(公社)東京生薬協会、(公社)東京薬事協会、本町生薬会		
1号事業 (事務局)	OTC医薬品とセルフメディケーション	第8回 よく知って、正しく使おうOTC医薬品	平成28年 9月 9日(金) ・10日(土)	新宿西口イベント広場	共催:6団体(東京生薬協会、東京薬事協会、日本家庭薬協会、日本OTC医薬品協会、東京都薬剤師会、東京都医薬品登録販売者協会) 後援:東京都、厚生労働省、日本商工会議所、東京薬科大学		
1号事業 (広報委員会)	会報の発行	第461号、第462号	平成28年 7月22日(金) 平成29年 1月20日(金)	会報No.461/2016.7月発行 寄稿:小根山隆祥、布目慎男 他 生薬解説:指田豊、総頁数:20頁 会報No.462/2017.1月発行 小林幸男、藤井隆太 寄稿:布目慎男 他 生薬解説:指田豊、総頁数:未定			
	協会ホームページの更新	「お花の見ごろ情報」「最新イベント情報」「新常用和漢薬集」「協会概要」等の更新					
1号事業② (事業管理委員会)	東京都薬用植物園委託事業	東京都薬用植物園の委託管理事業の充実と共に、栽培技術の向上と伝承を図り、薬用植物や生薬に対する知識・情報を国民に対し正しく普及啓発する活動を積極的に実施する。	1) 東京都薬用植物園の事業管理 2) 薬用植物や生薬の普及啓発事業 3) 研修業務 4) 薬用植物、生薬の栽培業務 5) 薬用植物、生薬の収穫・保存・展示業務 6) 調査研究補助業務 7) 鑑定、鑑別補助業務				
	薬草教室	第1回	日本の桜～ソメイヨシノの起源を解明～	平成28年 4月 4日(月)	東京都薬用植物園	中村 郁郎 (千葉大学教授)	76
		第2回	森に学ぶ～樹々が森をつくる～	平成28年 5月26日(木)	〃	杉本 和永 (玉川大学元教授)	113
		第3回	歯科医療の今昔 ～身体は一つつながっている～	平成28年 6月16日(木)	〃	武内 久幸 (香番館デンタルオフィス院長)	78
		第4回	梅の効用	平成28年 7月14日(木)	〃	小磯 道夫 (うめ八社長)	
		第5回	皮膚疾患と漢方	平成28年 8月25日(木)	〃	大野 修嗣 (大野クリニック院長)	
		第6回	薬用植物・ハーブに発生する病害虫	平成28年 9月13日(火)	〃	堀江 博道 (法政大学植物医科学副センター長)	
		第7回	植物の香りに学ぶ	平成28年10月25日(火)	〃	柏木 光義 (花王製香料研究室第3室長)	
		第8回	漢方で寒い冬を乗り切ろう! ～冷えやかせの対策は万全ですか?～	平成28年11月16日(水)	〃	新井 信 (東海大学医学部准教授)	
	イベント事業	第1回	開病と薬膳 春	平成28年 4月 9日(土)	〃	近藤 美春 (薬膳研究家)	51
		第2回	ハーブとともにある暮らし	平成28年 4月16日(土)	〃	小泉 美智子 (草星舎共催)	25
		第3回	光と風の中の薬草四季	平成28年 4月23日(土)	〃	池村 国弘 (草星舎共催)	53
		第4回	ケンのパネル展	平成28年5月1日(日)～20日(金)	〃	ケン畑の前	171
		第5回	ケンのミニ講座	平成28年5月7日(土)・8日(日)	〃	薬用植物園職員	30
		第6回	グリーン・グリーン・リース	平成28年 5月21日(土)	〃	田淵 清美 (草星舎共催)	30
		第7回	颯爽アロマ	平成28年 6月 4日(土)	〃	鈴木 悦子 (草星舎共催)	27
		第8回	薬膳 猛暑を乗り切る	平成28年 6月11日(土)	〃	近藤 美春 (草星舎共催)	55
		第9回	ハーブで夏をさわやかに	平成28年 7月 2日(土)	〃	小泉 美智子 (草星舎共催)	30
第10回		薬草クイズラリー	平成28年 7月24日(日)	〃	東京生薬協会		
第11回	夏休み親子植物教室	平成28年 8月 4日(木)	〃	中山 麗子			
第12回	野の花を活ける	平成28年10月 8日(土)	〃	加藤 治草 (草星舎共催)			
第13回	草木で染める・染まる	平成28年10月22日(土)	〃	山 浩美 (草星舎共催)			
第14回	落語に見る食の風景 その1	平成28年11月12日(土)	〃	一升亭 吾介 (草星舎共催)			
第15回	手湯でポッカポカ	平成28年11月19日(土)	〃	小根山隆祥			
第16回	薬膳 厳冬を乗り切る	平成28年11月26日(土)	〃	近藤 美春 (草星舎共催)			
第17回	木の実・草の実リース作り教室	平成28年12月13日(火)	〃	中山 麗子 (草星舎テクニカルスタッフ)			
第18回	健康講座	平成29年 3月10日(金)	〃	東京薬事協会と共催			
2号事業 (栽培事業委員会)	薬用植物栽培講習会	福井県高浜町町民大学講座	平成28年 5月 5日(木)	福井県高浜町公民館	小谷 宗司 (信州大学客員教授)	30	
3号事業 (学術委員会)	日本薬局方原案審議委員会への参加		生薬等A委員会および生薬等B委員会に委員を派遣する。(11回/年)				
3号事業 (栽培事業委員会)	美郷町視察研修	美郷町栽培地視察・収穫、記念植樹	平成28年 4月26日(火)・27日(水)	栽培連携協定締結式			10
	八峰町視察研修	栽培地視察	平成28年10月 6日(木)・7日(金)				
	薬用植物園内栽培の実施	秋田県八峰町、秋田県三郷町、新潟県新発田市、新潟県新潟市、福井県高浜町、岐阜県岐阜市、大分県杵築市の7自治体					
4号事業 (学術委員会)	薬用植物指導員認定者 フォローアップ研修	てのひら薬草園	平成28年 4月24日(日)	植物の解説ラベル約180種にQRコード貼付			7
		ケン研修講座	平成28年 5月19日(木)				9
		製薬会社工場見学	平成28年10月予定				
共通事業 (総務委員会) (事務局)	現代化中医薬国際協会(MCMA)との交流	1) 訪問先: MCMCM展示会場、衛生局訪問 2) 展示会で薬用植物栽培事業、東京薬用植物園のポスターを掲示					
	薬用植物生け花展	秋の七草	平成28年10月14日(金)	昭和薬貿ビル2F直会会場	薬祖神奉賛会 協力事業		
	新年賀詞交歓会		平成29年 1月30日(月)	神田明神 明神会館			

※予定日等が変わる場合がありますので、開催日の1ヶ月前位に電話等でご確認をお願いいたします。  
問い合わせ先: 公益社団法人東京生薬協会 042-346-2663



**(表紙) キキョウの解説**

● 東京薬科大学 名誉教授 指田 豊 ●

**キキョウ**

キキョウ *Platycodon grandiflorus* A. DC. (キキョウ科) は1属1種の多年草で、日本、朝鮮半島、中国、シベリアの東南部に分布しています。茎は直立し、大きいものでは高さが120cmほどになります。全体に乳液を含み、切ると白い乳液が出てきます。

7-9月に茎頂に1~数個の大型の花を付けます(写真1)。花冠は5浅裂して、色は青紫色ですが、淡紅色、白色などもあります。雄しべは5本、雌しべは柱頭が5裂しています。雄性先熟で、雄しべが花粉を出し終わってから柱頭が開いて受粉が可能になります。表紙写真がその状態です。こうして自家受粉を防いでいます。花後に球形の蒴果を結び、多数の黒色の種子が出来ます。

**絶滅する恐れのあるキキョウ**

キキョウは花壇などに広く植えられており、絶滅など考えられないと思われそうですが、絶滅危惧種に指定され、このままでは将来、野生のキキョウは絶滅すると心配されています。これは開発、野山の手入れ不足によりキキョウの好む明るい草原が減ったことが主な原因です。除草の仕方も影響していると思います。昔、鎌で刈っていた頃は綺麗な花は残すという手心が加えられましたが、今は機械で一斉に刈られてしまいます。

**キキョウの学名について**

キキョウの学名 *Platycodon* はギリシャ語の *platys* (広い) と *codon* (鐘) に由来し、花冠の形を表しています。また、*grandiflorus* は大きな花の意味です。*Platycodon* は男性名詞ですので、種小名も男性の形容詞の *grandiflorus* にする必要があります。日本の多くの図鑑では中性扱いで *P. grandiflorum* になっていますが、これは間違いです。

**生薬としてのキキョウ**

キキョウには太い直根があります(写真2)。これを乾燥したものが生薬のキキョウ(桔梗、桔梗根)です。さらにそのまま干した皮付き桔梗、すなわち生干し(しょうぼしと読む)桔梗と外皮(コルク皮)を剥いだ後に乾燥した皮去り桔梗、すなわち晒し桔梗に分けることがあります(写真3)。

**[性状]**

不規則なやや細長い紡錘形~円錐形で長さ10-15cm、しばしば分枝し、外面は灰褐色、淡褐色または白色です。味は初めなく、後にえぐ味と苦味を感じます。

**[成分]**

多糖類の inulin、platycodin、サポニンの platycodin A、C、D、D2、D3、polygalacin D、D2、を含みます。サポニンは外皮の近くに多いため皮去り桔梗にはサポニンはあまりありません。

**[薬理]**

サポニンに鎮咳・去痰作用、抗炎症作用、免疫増強作用、多糖類のイヌリンに免疫増強作用、アルコールエキスに血糖降下作用、抗潰瘍作用が認められました。

**[適用]**

漢方では排膿薬として化膿性疾患、扁桃炎、咽喉痛などに応用します。西洋医学では去痰、鎮咳薬とします。化膿性疾患には塗布しても効かず、内服で効果を示します。これはキキョウの成分の免疫増強作用によるものと考えられます。



写真1 キキョウの花

写真2 キキョウの根  
大株で根がいくつかに分岐している写真3  
皮付き桔梗と(左)と皮去り桔梗(右)

No.461

東京生薬協会会報

発行/公益社団法人 東京生薬協会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-11-4  
東神田藤井ビル7F  
TEL・FAX 03-3866-5522  
<http://www.tokyo-shoyaku.jp/>  
発行/2016年7月22日